

# 安佐南区のまちづくりについて

まちづくり懇談会の開催にあたって

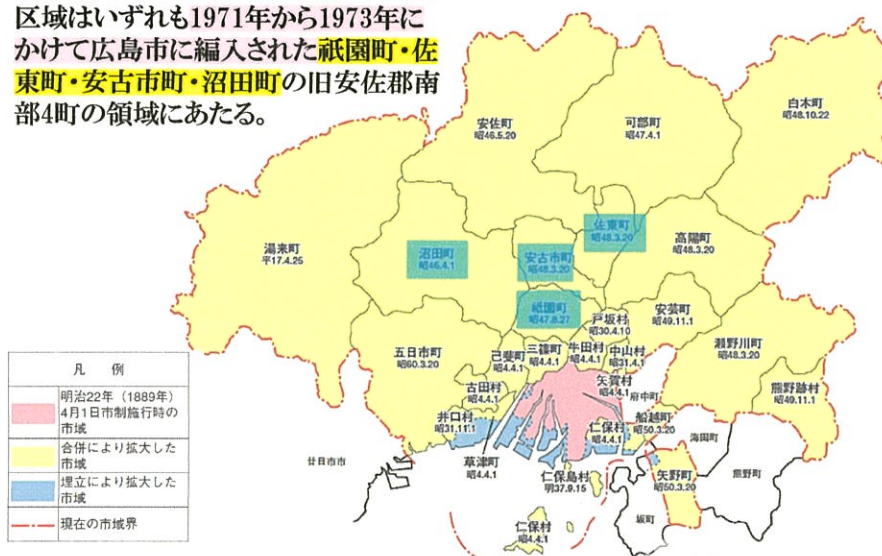


平成31(2019)年2月20日

K.Matsui ©

## 安佐南区の変遷

1980年(昭和55年)4月1日、広島市の政令指定都市移行に伴い設置された。区域はいずれも1971年から1973年にかけて広島市に編入された祇園町・佐東町・安古市町・沼田町の旧安佐郡南部4町の領域にあたる。



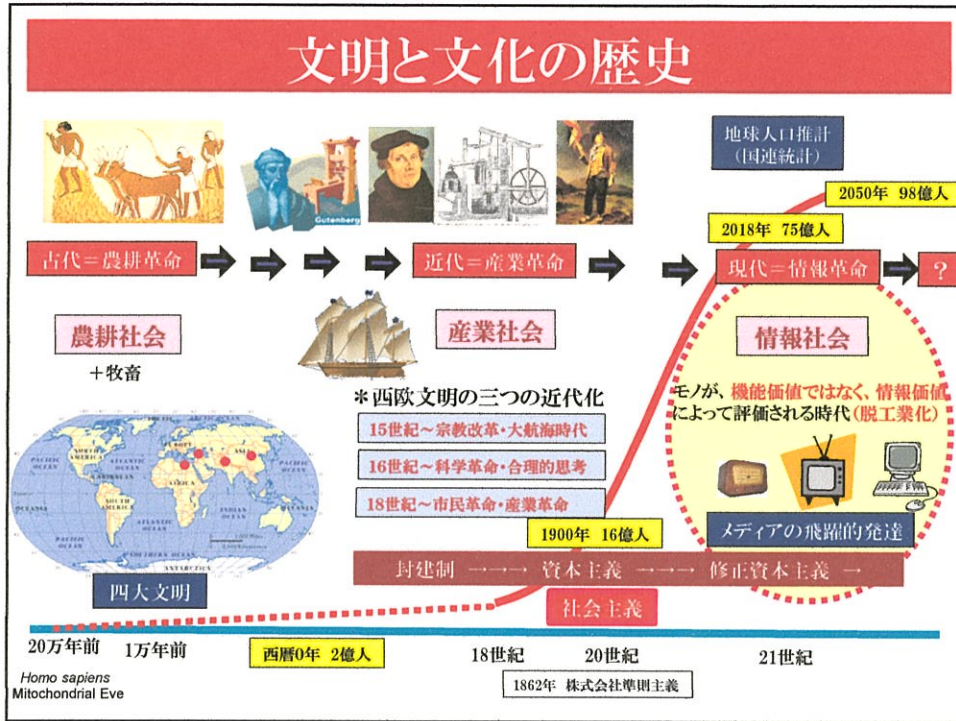
## お話しさせていただく内容

1. 現代社会の課題を見つめて
2. これからのまちづくりのまなざし
3. まちづくり構想に取り組む思い
4. おわりに




## 1. 現代社会の課題を見つめて

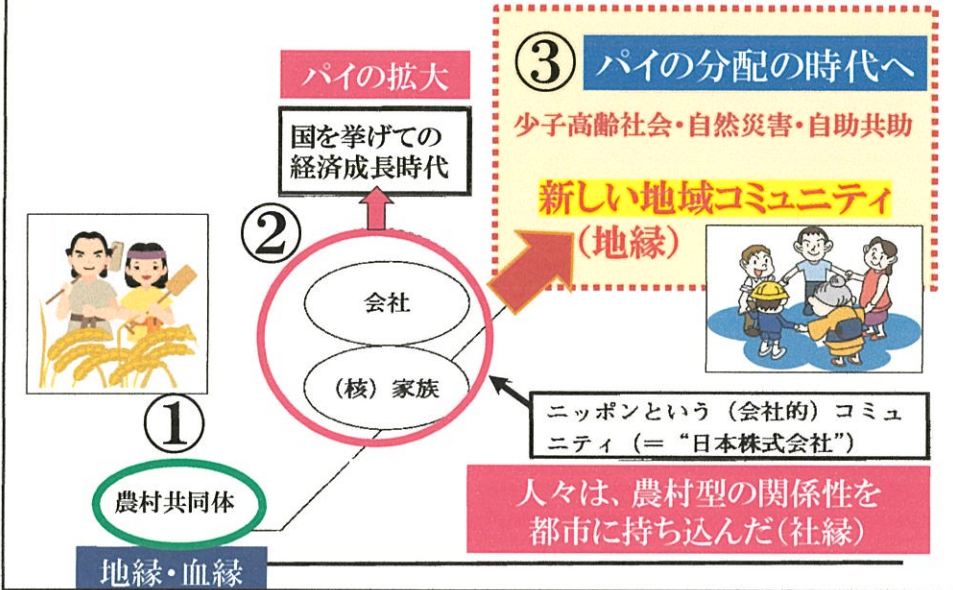




## 戦後の経済発展と社会の主要な変化

<p><b>1950年代</b> 集中的工業化</p>	<p>○戦後復興のための集中的工業化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村落部からの人口移動による労働力の確保 (就職列車など)</li> <li>(戦後の復員による農村人口の増加解消)</li> </ul>
<p><b>1960年代</b> 高度経済成長</p>	<p>○社会の二重構造化 (世代/家族の分離) → 地縁・血縁の崩壊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央、工業地帯、大都市部では、戦後生まれを中心に、新しい個人社会が形成される。(会社や所属組織が生活と精神の総よりどころに)</li> </ul>
<p><b>1970年代</b> オイルショック</p>	<p>○モノの豊かな総消費社会 = Japan as No.1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国交通網の整備</li> <li>・エネルギー転換 (石炭から石油へ)</li> <li>・食料問題 (グローバル化)</li> </ul>
<p><b>1980年代</b> バブル経済</p>	
<p><b>1990年代</b> バブル崩壊</p>	
<p><b>2000年代</b> メディア変革</p>	<p>○交通・通信の拡大により、遠い者たちが直接結ばれる時代</p> <p>⇒ 社会の中間項としての地域コミュニティが希薄化し、いざというとき、地域で剥き出しの個人が孤立する。(非管理社会・匿名性)</p> <p>○災害の頻発化を教訓に、地域コミュニティの再興へ</p> <p>⇒ 超高齢化、少子化から人口減少社会 (縮小社会へ)</p>

## 新しい「地域コミュニティ」のかたち



## 2. これからのまちづくりのまなざし



都市とは、『多様な人々を惹きつける場所』  
まちとは、『人々(の心)が帰ってくる場所』

## 『大きな忘れもの』をしてしまった

20世紀後半、わたしたちは、戦後の復興とともに、明日は今日よりきっとよい日になると信じて一目散に駆けてきた。



### (1) 故郷の喪失

### (2) 生きる目的・意味の喪失

自由や民主主義は、幸せな社会をつくる手段であることを忘れ、目的化されてしまった。

### (3) 地域の絆…『もやい直し』

ぼろぼろになってしまった心の絆をもう一度つなぎあわせよう。



1953年5月29日  
ヒラリー卿エベレスト登頂

## 新しい時代の生き方と目的

(1) ものの溢れる消費生活に依存する生きる価値と幸福についての考え方から解放されること。

(2) 自然への畏敬を思い出すこと。

(3) 情報化の次に来る社会を創るために—  
人間が生きていくうえで、ほんとうに『かけがえのないもの(至高)』を探す旅

憎しみ⇒愛

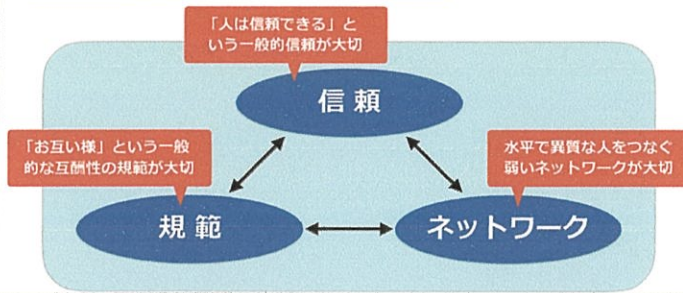
復讐⇒共存



## 孤独なボウリング (Bowling Alone)

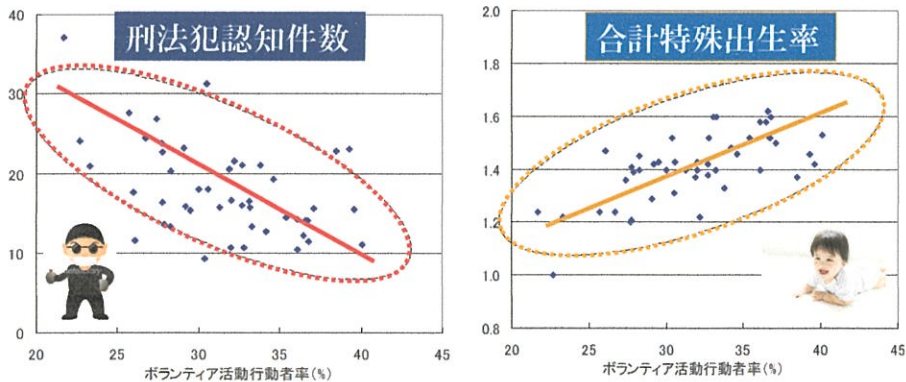
「社会関係資本」とは、市民が自発的にコミュニティを形成、あるいは参加し、金銭的・物質的な見返りを求めることなく活動する社会的絆を指す。

➡ 個人間のつながり、すなわち社会的ネットワーク、およびそこから生じる互酬性reciprocity と信頼 trustworthiness の規範である。



## 市民活動活性化の成果について

社会活動やボランティア活動の活発な地域は、犯罪発生率が概して低い傾向にあり、また出生率が高い傾向にある。



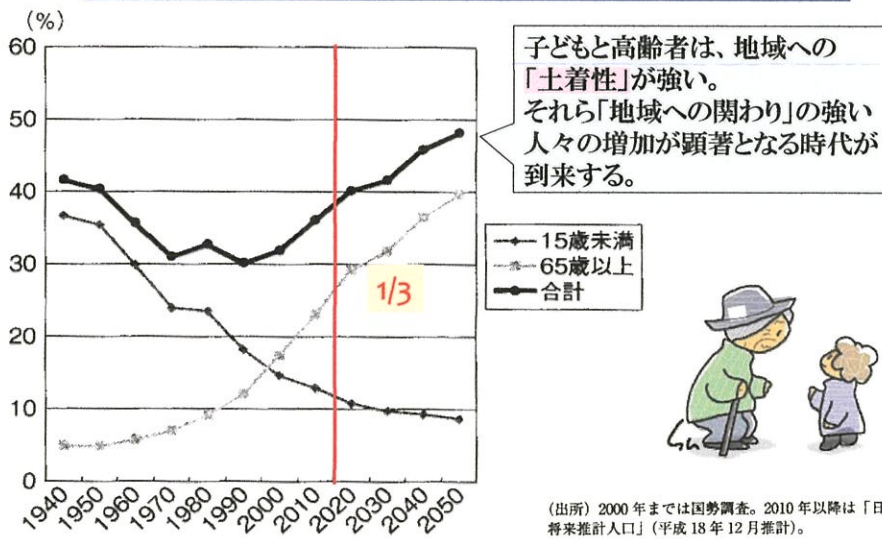
平成14年度 内閣府委託調査 ソーシャル・キャピタル:豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

### 3. まちづくり構想に取り組む思い



## 21世紀の地域社会の人口構造

### 「子ども・高齢者」の割合の推移



## 地域に生きるということ-自然・歴史・営み

### □地域に生きることの肯定

地域についての日頃の学びや活動を通じて、そこに生きることの**肯定感と愛着**を持つ。

### □人生をもっと豊かに…

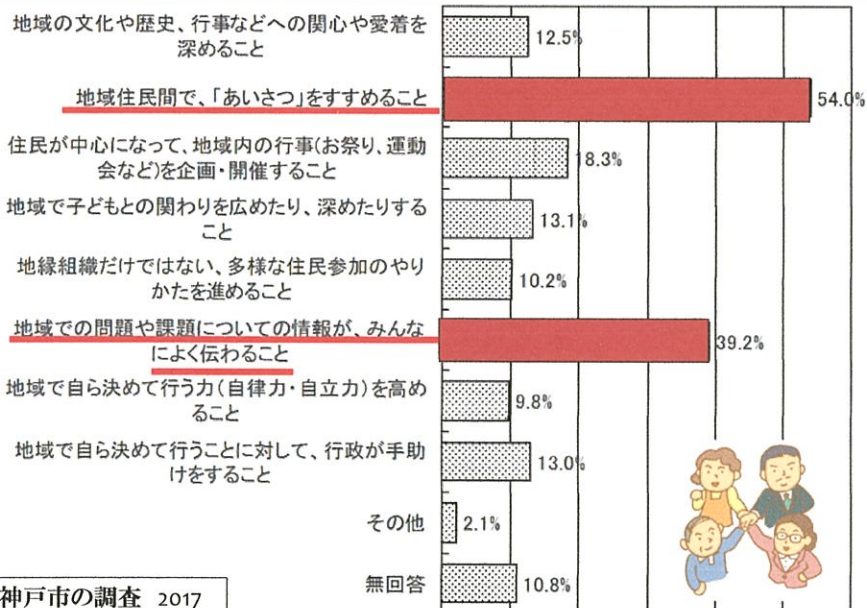
地域に暮らし、生きている自分を見つめる。「老いの意味」、「老いをどう生きるか」。



### □地域で生きていく意味とは

地域の課題と自分の生活を問い直すことで、「**自分がその地域で生きる意味**」を問い直し、**地域を変えていく主体**となる。

## 人と人の繋がりを促進する要因





## 新しい地域社会のルール

### 大切な心の忘れものを取りもどすこと

- (1) お互いの違いを認め合う。
- (2) 同化(参加)を強制されない。
- (3) 対等性で軽やかな関係。
- (4) 機会・参加の平等。
- (5) 相互の寛容(許し合う心)。



われわれには、心の依りどころを喪失し、未来を夢見られないでいる若者に対して「信じられる確かな未来」を手渡す責務がある。

## 4. おわりに



## 自治会(町内会)と自主防災組織

### 地域に存在する二つの住民組織の特性と協働について

・律令時代⇒五保制度  
 ・秀吉以来～江戸時代⇒五人組

・明治⇒市町村合併で残った「行政区」は、町内会(市)、部落会(町村)へ移行  
 ・1943(昭和18)年、町内会・部落会の下部組織「隣組」を強制  
 ・1947(昭和22)年、ポツダム政令15号「町内会・部落会について「戦争協力組織」として廃止命令」  
 ・1952(昭和27)年4月28日 サンフランシスコ講和条約発効・占領終了  
 <町内会・自治会の自然復活>  
 1971年「コミュニティ(近隣社会)に関する対策要綱」(自治省)  
 <市民加入率低下の現状>  
 ・1991年「地縁による団体」の認可…地方自治法の改正 地方自治法260条の2

地域コミュニティ全体

町内会・自治会会員  
(自由参加)  
役所の通達等の伝達  
住民の親睦組織

自主防災組織は、その地域に住むすべての住民が対象

<自主防災組織の結成推進>

- ・1995年1月17日阪神淡路大震災によって自助・共助の重要性認識
- ・2014 災害対策基本法の大改正

## 行政からの伝言～平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)

平成30年12月26日 中央防災会議・防災対策実行会議発表  
平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキングチーム

### 国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～(抄)

- ・自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ・行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- ・命を失わないために、災害に関心を持ってください。
  - あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
  - 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- ・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

## 新しい地域コミュニティの創造とは

社会全体が、マナーの欠如や孤立主義のなかで、無機質になりつつある。しかし、社会がすべてをシステム化し、制度化し、効率化することばかり考えていたら、コミュニティは、再び管理社会になる。

しかし、小さなコミュニティで人間同士が、理解しあい、共同しないで、大きな問題に対して、何ができるというのだろうか。



## 次の世代のためにどんなまちを残すか！

**明日、10年後、100年後**をどのように組み合わせてまちづくりを推進していくかが問われている。



- (1) 縮小する人口と経済社会において、都市開発や住宅建築に関する思想・所有権法等の抜本的な見直しが必要である。(→コンパクトシティ化)  
国土形成計画、建築基準法、都市再開発法、土砂災害防止法ほか特別法等
- (2) **地域コミュニティ再生**により、長寿時代を地域で「善く生きる」ため、そして、災害の世紀をともに生き抜く(共助)ために、市民の発想と行動を変える。

## まちづくり懇談会の議論について

### □市の中核課題を共有して—

- (1) 少子化、高齢化、(人口減少)
- (2) 地域コミュニティの活力低下
- (3) 個人の価値観・ライフスタイルの多様性
- (4) 子どもを取り巻く環境の変化
- (5) 外国人訪問客・市民の増加
- (6) 自然災害や地球温暖化、国際情勢の混迷



### ➡ 目標:

先進国における21世紀の社会変化への対応を軸として  
～区としての独自性をどう出すか？

ご清聴ありがとうございました。